

ザリガニと遊ぼう

藤沢市立高砂小学校

1. 実践の内容

高砂小学校の学区には、子どもたちが水の生物等に身近に親しむことができる適当な河川はないが、歩いて行ける場所に県立辻堂海浜公園がある。何人かの子どもたちはそこにある池で、小さいころから水の中の小さな生き物に親しんだり、遊んだりしているが、多くの子どもたちはそのような経験があまりない。そこで、2年生の生活科の学習の時間に、学校の近くにある県立辻堂海浜公園に出かけ、自作のつりざおやあみを使ってザリガニつりをした。つかまえたアメリカザリガニは、住むためにはどのような環境がよいかを調べながら、砂利や水草、隠れるための石などを入れたいくつかの大きな水槽を、教室前のオープンスペースに設置した。子どもたちは「ザリガニ広場」として、休憩時間になると、餌を与えたり触ったりしながら、アメリカザリガニと親しみ、その生態を学んだ。



2. 実践の成果

- ① 大きなたらいにアメリカザリガニを放し、どの子も直接さわることによって細かい点まで観察することができた。それにより、アメリカザリガニの体のつくりや生態を詳しく知ることができた。
- ② 生活科でアメリカザリガニと楽しく遊んだ経験を生かし、図画工作の学習で絵に表したり、国語で作文学習に取り組んだりするなど、さまざまな学習に発展した。
- ③ アメリカザリガニの世話を学年全体での活動として子どもたちが行うことで、小さな生き物を慈しみ、大切にするという意識が培われた。
- ④ 学校での活動だけでなく、自分たちで海浜公園に出かけたり、大庭の親水公園へ出かけたりして、自然や小さな水の中の生き物に対する興味・関心がさらに高まった。



3. 今後の課題、実践のポイント

- 生き物の飼育は必ずしもうまくいくとは限らない。どんなに親身になって世話をしても失敗することもあることを理解させて、どうしたら長く、元気よく生き続けることができるかを考えさせながら、取り組ませた。
- 学習後、子どもたちはもといいた海浜公園にザリガニを返すことを自ら提案した。外来種であるアメリカザリガニを、もとの池にもどしてよいかどうかは課題である。

